



【第7回】

こんな時どうする？ ケース別に見るポイント

連載

これで万全!

初めての 議会答弁

田村一夫

たむら・かずお 1951年生まれ。明治学院大学法学部卒業。73年、東京都多摩市役所入庁。企画・財政・秘書広報・人事等の部門の管理職を経て、副市長に就任。2009年退職。管理職、副市長としての25年間にわたる議会答弁の経験に基づき、議会対応のスキルを提供する。また、職員採用の面接官の実績を生かし、「公務員試験 必勝倶楽部」で公務員志望者の面接指導にあたる。

答弁で使う用語のニュアンス

議会答弁では独特な言い回しがあるので注意が必要になる。臨機応変に使えるよう身につけておきたい。例えば、次のようなものだ（筆者の場合）。

◎研究する…議員の提案などに対して考察すること。「検討」よりも消極的な意味合いで用いる。

◎検討する…提案された事実を実施できる可能性はあるが、市としての方針が未決定な場合等に用いる。

◎前向きに検討する…実施の可能性が高い、あるいは実現に向けて意欲的に取り組むべき事実などを受け入れる際に用いる。

◎今後の研究課題…議員の提案について課題と認識しているものの、まだ具体的な検討に着手していない場合に用いる。

◎ご意見として伺う…議員の提案に対し否定的な考えの場合に用いる。

こんな時どうする？

質問者と考え方が異なる場合

議員の主張と市側の考え方に、基本的な路線は同じであっても些細な違いがある場合には、その相違点を

答弁者側が整理することによって、双方が建設的な議論ができる。しかし、考え方の根本が異なっている場合や、無理難題を言われた場合には曖昧な答弁をするのではなく、根拠を明確にした上で「できない」と答弁する勇氣も必要だ。

政策の実施について検討に着手していない場合や、全く実施を考えていない政策についてどのように答弁するかは苦勞するところだ。時には、冒頭に掲げた議会用語を参考にして切り抜けることも求められる。

議員は市側とは異なる視点から質問するので、意見が食い違うのは当然である。議員の提案で「なるほど」と思ったものは素直に受け入れ、その実現に努力する姿勢が必要だ。

しかしながら、庁内の英知を結集して練り上げた考えが、議員の一言ですぐに変わってしまうようでは、プロの職員集団とは言えないだろう。そのためにも、日頃から様々な視点で問題を捉え、準備することが大切だ。

同じ質問を繰り返される場合

市側の考えを明確に答弁しているにもかかわらず、同じ質問を繰り返される場合もある。最初は言葉を変

えながら丁寧な答弁する姿勢も必要だが、何度も繰り返される時は、「繰り返し返しになります」と前置きをした上で、同じことを答弁すればよい。それでも続くようであれば「先ほど答弁申し上げた通りです」と言い切る。他の議員にも同じ質問を繰り返され堂々巡りになった時にも、「◎議員にお答えした通りです」と答える。

想定外の質問をされた時

議会前に様々な想定質問を考え、万全の準備をしたつもりでも、いざ本番となると想定外の質問で慌てることもある。その時は、事前準備の内容と資料を再確認し、できるだけ説得力ある答弁を心がける。

答弁で避けなければならぬのは知ったかぶりをすることだ。中途半端な答弁は議員に突っ込まれる材料を与えているようなものである。

想定外の質問にどうしても答えられない時には「申し訳ありませんが、そこまでの理解はしておりません。次回質問される時までに整理させていただきます」と引き取る形で答えられないが、長い目で見れば、その方が議員の理解を得られる。